

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894200013		
法人名	有限会社「スズショウ」		
事業所名	グループホーム「えがお」		
所在地	茨城県結城郡八千代町落田161-10		
自己評価作成日	平成22年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0894200013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年12月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・農村地区でもあり、緑広がる事業所所有の広大な敷地の中に当事業所があり、静かな環境の中、毎日さわやかな風を感じながらゆったりと過ごしています。また、所有の畑では四季折々の野菜が収穫でき、それを食する事も楽しみの1つとなっています。
 ・ホームの居間から続くウッドデッキで自由に外の空気に触れる事が出来、ウッドデッキから延びる芝生では、バーベキュー、夏は流しそうめん、冬は芋煮会、お祭り、コンサートなどのイベントで積極的に利用しています。
 ・定期的に協力医療機関を受診し、健康維持に努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

親の介護の経験して、高齢になっても住み慣れた環境で家と同じような暮らしを継続させたいという思いから開設した。広大な敷地に平屋のホームはデイサービスセンターが併設され、デイの利用者との交流も多くあり、イベントにも参加している。「昭和レトロ館」と名付けた一室があり、懐かしい品々が展示されていて、入居者に限らず一般の訪問客も楽しめる場となっている。社長自ら新しい発想を取り入れ、前向きな取り組みがなされている。健康管理にも十分配慮され、健康の水というこだわりの水がある。新しい管理者を迎え、経験年数が浅い職員がほとんどで発展途上といいながら、同じ方向に向かって一生懸命取り組んでいる姿勢が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の「えがお」が見たいの理念を実践すべく、毎日朝礼において実践理念、行動理念を全員で読み上げて、スタッフが共有できるように行っている。	理念を基本とした実践のために、行動指針を作り毎朝朝礼で唱和して、意識付けている。利用者の笑顔、職員の笑顔を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方々や、小学生等の子どもさん、ボランティア等、いつでも歓迎することで、門扉を大きく開いている。	地元のボランティアの協力を得られ、各種イベント申し込みが多い。知り合いなので利用者もよろんでいる。「えがお農園」というホーム所有の畑の手入れも手伝ってもらいながら、野菜作りを通じて地域との交流を深めている。グループホームの認識は徐々に浸透してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での介護相談や地域、近隣のケアに関する会議などに参加したり、認知症研修等受講し、相談窓口になるなどの支援を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ご家族や、介護保険課、地元の方等の率直な意見を伺い、サービスの向上が出来るようにすぐに活かしている。	課題となっていた運営推進会議の開催にこぎつけ、今後は定期的な開催に向けて努力している。会議はかたくならず自由な雰囲気で行っている。	会議の役割を理解し活用することで、地域との繋がりが広がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の受け入れや、対応について、町の担当者とも連絡を取り、連携体制が築けるよう取り組んでいる。	市役所の担当者のもとへ積極的に出向き、グループホームとの情報交換しながら面識ができてきたところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃より「身体拘束はしない」を基本として取り組んでいる。また、身体拘束をしないようにフロアには必ずスタッフを配置している。	拘束についての理解を深め、拘束行為になりそうな時には行政に相談しながら、適切な対応を行っている。拘束についてのマニュアルが作成されていて、研修しながら共有している。	

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で得た内容をスタッフ間でも情報を共有し、虐待の防止についてきちんと学び、皆で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用中の利用者もいる為、研修等で学びを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時では読み合わせを行ない、疑問点や不安な部分を十分に話し合い、双方が納得した上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口、運営推進会議、アンケート、電話や面会等での直接の意見や提案を受けている。また、必ず家族には毎月面会するようにし、直接情報収集、情報交換に努めている。	家族からは活発な意見がだされ、改善点はすぐに対応するように努めている。意見箱を用意しているが、家族から直接意見を聞くために、利用料金を現金で支払っていただくなどの工夫もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフアンケートを行ない、さらにミーティングで検討したり、スタッフから直接意見を聴くなどにより意見を反映させている。	スタッフアンケートで職員の意見を聞きながら、参考にして方針を改善していく。社員教育は挨拶からが社長のモットーである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全スタッフ個々と話しあい、個々の介護に対するの考えや気持ちを受け止め、また、努力や実績等を把握し、職場の環境、実績状況の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為の支援、定期的に内部研修や、労働安定センターに依頼し、職場内で研修を全員で受けるなど、内外の研修を積極的に行ない、ケアの向上に努めている。		

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所に全員が外部研修に出かけたり、相互訪問や近隣事業所合同ミーティングに参加してネットワークづくりや情報交換を行なってケアの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ず面談を行ない、要望や困っている事等の相談に乗り、安心できる関係づくりが出来るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族とも必ず面談を行ない、要望や困っている事、不安なことなどを個々話し合い、安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを組み立てる上で本人や家族等とも話し合い、必要としているサービスを見極めながら行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての指南を受け、尊敬するとともに、喜怒哀楽を共にし、共同生活者としての関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントや外出を積極的行なったり、面会時間の制限を設けず、忙しい家族にも面会に来ていただけるように配慮している。また、月1回以上は面会に来て頂くなど家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族が営んでいる食堂に実際に昼食を食べに行くなど、馴染みの場所へ実際に外出したり、家族とともに外出・外泊を行なったり、遠方の家族は手紙や電話等、継続しての支援を行なっている。	利用者家族が営むそばやに出掛けたり、入居者の8割が農家だったことから、畑が馴染みの場所でもある。遠方の家族の方は手紙や電話で関係が途切れない支援を行っている。	

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いせず、利用者同士の関係がより良くなるように、共通の話題などを提供し、さりげなく仲介を行ったり、スタッフが寄り添ったりし、関わり合いが出来るように支援を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も次の移動先へと連絡や調整等の支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりと向き合い、想いや希望を積極的に聴くようにし、意向を把握し、支援につなげられるように努めている。また、内容によってはケア会議などで話し合い、その人らしいケアを提供できるよう、スタッフ間の共有を行なっている。	どのように過ごしたいか一人ひとりから直接聞き取り、本人の意向を尊重している。意思表示が困難な場合は家族から聞き取る。把握した情報はケア会議などで職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、支援担当者等から生活歴やこれまでに大切にしてきた習慣等を伺うことにより、ケアに活かせる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族、支援担当者等から生活歴や1日の過ごし方を伺ったり、利用者によってはセンター方式を用いたりしながら、ケアに活かせる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意向を伺うとともに担当者会議等を行ない、意見を反映した介護計画を作成するようにしている。	職員全員が計画作成に参加できるように努めている。経験が浅くまだまだこれからという所であるが、自分たちなりに検討を重ねている。	介護計画の意味を理解するとともに、課題は具体的にすることで、スタッフ全員が介護計画作成に取り組めることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人経過記録などに毎日記録する事により情報を共有し、スタッフ間の統一したケアや見直しなどにも活かしている。		

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に対応し、面会時間の制限をせず、また、食事時間や、好み、時間の過ごし方など利用者や家族の意向や決定を重視し、柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して豊かな生活が楽しめるように地元警察、消防、地区の幼稚園、学校等に協力をお願いしている。また、ボランティアを積極的に受け入れるなど地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に毎週定期診療を受けており、救急時は24時間対応もおこなっている。また、希望により他医療機関を受診する場合は家族やホームで付添って受診の支援を行なっている。	地元の医師が定期的に往診することで健康管理を行っている。専門外来へは受診は家族が付き添うが、事情によっては職員が対応している。緊急時には24時間対応の体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や、訪問看護師に常にそうだし、連絡を行ない、指示や指導を受け、必要時には受診を頼めるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時などの情報交換や実際に訪問してのやり取りにより医療機関や家族等連携を取り、早期退院に向けて治療出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師や職場内看護師、訪問看護師と連携をとりながら、十分に家族と話し合いをしながら行なっている。終末期のケアも支援に取り組んでいる。	オーナー、医師、看護師が説明したうえで同意書も作成している。現在ターミナルの利用者がいて、職員も看取りケアに積極的に取り組む姿勢がある。ひとりの終末期ケアの経験が、スタッフみんなの自信に繋がる事を期待しながら方向性を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所において研修を行い、急変に対して日ごより注意している。		

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に関し、運営推進会議などでも話し合っており、定期的な総合防災訓練を消防署立会いで日中・夜間想定で半年に1回の割合で訓練している。	居室のウッドデッキが避難通路にもなる。消火器の場所はわかりやすい表示になっており、目立つ場所に設置されている。消防署立ち合いのもと、夜間想定で行った。近所に住む職員が多いので災害時は短時間で来られ、消防車到着までには一次避難が可能である。代表者は2分で到着できる体制にあ	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の支援でも1人ひとりの人格を尊重し、言葉かけやプライバシーに介入しすぎないように注している。	個人情報使用についての説明を行い同意書を作成している。個々人の人格を尊重するという基本的な考え方から、声掛けや接し方に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や想いを本人が表せる様に、言葉を塞がないような支援を心がけると共に、食事や行事も本人に意見を伺い、選択していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が過ごしていた今までの生活を大切にしながら、1人ひとりの希望に沿ったペースでその日その日を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みやセンスを理解し、楽しみながらおしゃれが出来るように支援している。出張美容室を利用し、好みのカットやヘアカラー等を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はホームの畑から利用者と共に収穫した旬の素材を利用し、下準備を行なっている。また、定期的に地元料理やイベントメニュー、おやつなどを一緒に作る事により、喜ばれている。	えがお農園で収穫された食材中心に、自給自足の食事になっており、入居者からはおいしいと好評である。食事作りやおやつ作りは利用者と一緒にいき、焼きそば作りが得意な利用者もいる。職員と利用者は別々に食事を摂る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人経過記録に毎日24時間、水分量・食事を記録(様子に関しては、変化のあった場合記入)し、本人の嗜好、栄養状態、体調等を共有して把握できるようにしている。		

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となっており、歯磨き介助、入れ歯洗浄、口腔内清拭など、一人ひとり状態に合わせて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをは共有して把握できるように24時間個人経過記録に記入している。また、トイレでの排泄を大切にし、日中、夜間の習慣を活かしてオムツからリハビリパンツに変更して自立支援を行っている。	一人ひとりの排泄時間を把握、個別に対応している。夜間のみオムツ使用2名、日中はリハビリパンツ、トイレでの排泄を基本としている。利用者の目線にトイレの表示があり、迷わずに使える工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をすすめたり、食事や手作りのおやつメニューを繊維質の多い物や野菜を多くするなど、ヨーグルトなどを積極的に取り入れたり、なるべく身体を動かすよう配慮している。栄養士とも話し合いをもっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっているが、毎日午後に、本人の希望や都合に合わせている。入浴拒否者には、体調や機嫌のよい日を見計らいながら促しており、同時に夕方や、就寝前に足浴も取り入れている。	午後から入浴希望がほとんど。ゆず、菖蒲、リンゴ湯など季節を楽しむ工夫もされている。入浴を嫌がる人も、無理強いすることなく自然体で誘導、入浴出来ないときは足浴で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ、就寝前はだんらんなどでゆったりと過ごしていただいた就寝しており、安眠できるように支援している。日中は好きな時に休息がとれるようにソファを数か所に設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋がファイルし、保管しており、共有できるようになっている。主治医や看護師から服薬についての注意や指示を受け支援しており、変化があった場合は随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで行なってきた生活を大切にし、これからも行なえるように支援している。好みの物を食事にプラスしたり、気分転換に散歩や外出のなどを支援している。		

茨城県 グループホーム「えがお」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域的に買い物等の習慣があまりないが、季節の行事(花見や祭りなど)を見に外出したりと戸外へ出る様に支援している。広大な外気浴・ホームの周りの散歩は日常的に行なっている。	道の駅で外食、祭りの出店へ出かけたり、近くのスーパーカスミで買い物など外出の機会が多い。正月は香取神社へ初詣。広いホームの敷地内の散歩は毎日の日課のようになっており、外気浴を十分に楽しんでる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じ、高額ではないがお金を所持したり、所持が困難な利用者には、外出時に好きな買い物を楽しんでもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚等から頂いた手紙に自ら返事を書いている。また、希望時には電話も取り次ぎ、家族の声を聞いてもらい、喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には思い思いに過ごせるようにソファが数か所に設置してあり、食後横になれるようにベットもある。また、季節感が味わえる様に庭に咲いている花や作成物、写真などを掲示している。	掃きだし窓から常時出入りし、外気浴、ウッドデッキでひなたぼっこなどそれぞれが自由に過ごしている。建物は平屋で広いスペースとなっていて、廊下には長椅子が置いてあり、利用者同士の社交場にもなっている。歩き疲れて一休みすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際や各コーナーには椅子が設置してあり、自由な時間を楽しめる、また、共有スペースのソファで利用者同士で一緒にくつろいだりしており、ほほえましい風景がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を居室に配置し、心地よく過ごして頂く工夫をしている。また、ホーム内には、経営者の設置した「昭和レトロ館」があり、昭和時代の懐かしい空気に触れ、不穏時等の対処にも役立っている。	なじみの物を居室に持ち込んでもらい、思い思いのレイアウトになっている。利用者の使い勝手に配慮しながら居室の整理整頓の支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の場所が特定できるように飾りをつけたり、トイレや浴室などは一目でわかりやすいような掲示をしたりと工夫に努めている。また、物品もひと目でどこにあるかを解るように配慮している。		

目標達成計画

記入日 平成 23年 5月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	課題となっていた運営推進会議を開催できたが、定期的には開催までには至っていない。	定期的に運営推進会議を開催できるようになることで、地域との繋がりをさらに深め、今後の運営に活用していきたい。	3月17日に運営推進会議を開催予定であったが、震災の為に延期となっていたため、開催に向け、準備を行っている。次回開催することで、定期的開催に繋げていけるように日程調整をおこなってきたい。	3ヶ月
2	26	介護計画を立案する上で、職員の多数が経験が浅く、立案には苦慮している。	職員全員が計画作成に参加できるようになり、課題を具体的に抽出することで、介護計画の意味や必要性を理解していく。	勉強会や、ケア会議を積極的に行い、計画作成に全員で取り組めるように行っていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。